

日本経済新聞

土曜版

NIKKEI 夕刊

2020年 2月15日 土
(令和2年)

お笑いをスキルとして捉え、学ぶ動きがビジネスパーソンの間で広がっている。ビジネストークを磨きたい営業職や、飲み会の減少で若手とのコミュニケーションが減った管理職など受講生はさまざま。お笑いを職場の潤滑油にとの狙いがあるようだ。

「なんでやねん!」。1月中旬、神奈川県鎌倉市のビルで、男女が漫才を繰り広げていた。ビジネスパーソン向けお笑い講座「笑伝塾」だ。吉木興業出身の元お笑いタレント、殿村政明さんが手がけている。

この日は「ツカミのテク」。「笑いのメカニズム」がテーマ。コミュニケーションスキルを学ぶのが主眼だ。漫才中も「相手の話に感心した感じを出して!」と厳しい声が飛んでいた。

「まずは相手に興味を持つのが大事」と殿村さん。リアクションを大きににして「あなたの話をもっと聞きたい」と示すと距離がぐっと近づき、笑いが生まれやすい関係になるという。

東京都新宿区の男性コンサルタント(37)は2年前から同塾に通っている。「ビジネストークを磨きたかった」。話術が巧みな同業者に惨敗した経験がきっかけとなった。

「自分がいかにコミュニケーションをさぼっていたか分かった」。あいさつや雑談では声を張り、相手が

仕事に笑いのイロハ

話したいことを考えて聞くように。「会話に笑いが生まれ、顧客から飲み会に誘われる機会が増えた」と手応えを感じている。

なぜお笑いなのか。コミュニケーション講師の大嶋利佳さんは「これまでの研修はプレゼンなど人前での振る舞いを中心。日々の雑談までは教えてこなかった」と指摘。「上司とのコミュニケーションが苦手な若手が増え、1対1の会話術を教えるお笑い講座に注目が集まった」と分析する。

お笑いセミナーを開く「株式会社俺」(東京・千代田)の中北明宏代表は「場を仕切る芸人の姿はビジネスに通じる」と話す。「お笑いをスキルを学ぶ人の中に管理職の姿も目立ってきた」。最近の若手は飲み会を敬遠する人が多く、コンプライアンス意識も高い。そんな若手とのコミュニケーションを円滑にしようという。

東京都内のメーカーに勤める福田直由さん(38)もその一人。カスタマーサポ

若手との



営業トーク磨く



コミュニケーション
神奈川県鎌倉市

社員研修 多様に